

新潟港臨港道路入舟臨港線

受賞機関 国土交通省北陸地方整備局新潟港湾・空港整備事務所

はじめに

新潟西港は信濃川の河口に位置し、港口部に連絡路がないことが、港湾の物流をはじめとする経済活動や市民生活の面でも大きな障害となっていた。特に、交通渋滞の発生は新潟西港・空港・東港などにおける物流機能の連携強化においても課題となった。

このような状況を解消するため、日本海側初の沈埋工法を採用した海底トンネルを信濃川の河口部に建設、平成14年5月に一部供用を開始した。

事業の概要

事業名：新潟港臨港道路入舟臨港線（愛称：新潟みなとトンネル）

延長：3,260m(沈埋部850mを含む約2km区間を供用開始)

規格等：4種1級(設計速度60km/h)、往復分離4車線(車道の両側は自転車・歩行者道)

事業期間：昭和62年4月～平成14年5月

事業の特徴

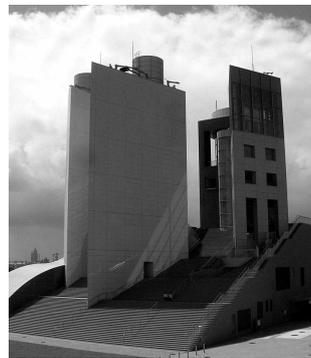
本事業区間は海浜に近く、砂地盤における高い地下水位下での大規模掘削、液状化対策、耐震設計などこれまでに前例のない技術課題を乗り越え、コスト縮減や合理的な設計・施工を実現してきた。特に、

立坑は単なる換気塔ではなく、新潟港のランドマークとなるべき景観施設として人々が親しみをもって訪れることができる空間創りに配慮した。

事業の効果及び成果

河口部の兩岸連絡時間が大幅に短縮となり、港湾区域で活動する人・物の流れが円滑になるとともに、市街地の交通渋滞の緩和に顕著な効果を発揮している。

臨港地域のルートが形成されたことにより、新潟西港・空港・東港の連携が強化され、北陸・関越・磐越などの高速道路、上越新幹線等の広域交流ネットワークとしての機能がさらに向上し、環日本海の国内外ゲートウェイの形成に重要な役割を果たしている。



入船みなとタワー



山の下みなとタワー

